# 日 本 の 近 代 史 の 課 題

## ―― 独島（日本名は竹島）考察を中心に ――

李　修京*・笠井　憂弥**・日下部　龍太***・朴　中鉉****

アジア言語・文化研究分野

**要　旨**

近代における日本と韓国の不幸な歴史が未だに総括できていないことは周知の通りだが，そういった過去の清算しきれていない諸問題は，時には社会や政治状況によって外交摩擦の要因として用いられて，相互の国民感情を刺激し合ったり，偏狭的ナショナリズムを助長する場合も多々ある。その問題の一例として，靖国合祀問題や戦時中強制連行労働者問題，従軍慰安婦問題などが挙げられよう。本稿ではそういった近代史によって生まれた「不幸な歴史的残骸」として「象徴的存在」になっており，絶え間なく両国に解決すべき歴史総括問題として浮上してきた独島（竹島）について考察する。結論から述べると，この島は日韓両国の政府が真摯に歩み寄って解決を図ろうとしようとしたら既に解決済みになって不思議じゃない問題である。しかし，両国とも曖昧な態度で対応し，最初から対抗的構図を避けるためにこれまで両国の政府が微温的外交態度で看過してきたと指摘することができる。この研究ではもっと根本的問題を確認するために，戦前の日本の歴史・地理・地図教科書の比較するとともに現在の問題状況とその歴史などについて考えて見た。さらに，最近のメディアや社会的動きにも注目している。

キーワード：独島，竹島，メディア，日本の戦前の歴史・地理・地図教科書

* Tokyo Gakugei University
** Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University
*** Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University
**** Yangjae highschool, Seoul